

# 国際経済学の魅力と重要性

## Q 研究分野もしくは担当科目の魅力

国際経済学は名前の通り世界全体の経済の動きについて分析する学問ですが、大きく2つに分けられます。ひとつはモノ、人、企業などの流れ（実物経済）を分析する国際貿易論、もう一つは資金の流れを分析する国際金融論です。私は前者の国際貿易論が専門です。国際経済に関する研究テーマは経済学が生まれた初期から存在する伝統的なものであるとともに、グローバル化の進展に伴い今日的なテーマにもなっています。考えるべき、対処すべき問題は山積しており、現実の経済問題・政策に関する実際的な分析・提言をおこなえる分野なので、非常にやりがいがあります。

## Q 研究分野を志したきっかけ

そもそもは開発途上国の貧困問題や開発問題に興味があり、開発論などについて勉強を始めましたが、大学時代の先生をはじめさまざまな人との出会いや影響があり、気づいたら貿易論を専攻していました。国際経済学も開発問題を考える上で重要なツールのひとつであり、その意味では初志貫徹していると自分では思っていますが、苦しい言い訳に聞こえるであろう事も自覚しています。

- 国際経済学Ⅰ・Ⅱ
- 市場と経済A
- 基礎ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ



藤井 孝宗

(ふじい たかむね)

横浜市出身。慶應義塾大学経済学部・大学院経済学研究科卒業後、愛知大学経営学部専任講師、准教授を経て現職。専門は国際経済学。国際経済学者たるもの国際的に活動しないと、と年1回は海外出張するようにしています。

## Q 研究分野の将来性・発展性

近年のグローバル化の急速な進展により、国際経済学で扱うべき仕事は格段に増えています。WTO（世界貿易機関）を中心とした世界経済体制作りの交渉と、各国独自の自由貿易・経済連携協定ブーム、自由貿易体制と反グローバリズムとの軋轢など、対処すべき課題は多いです。一方これらの問題に対応する人材は残念ながら不足しています。経済学者は原則論に固執し、反グローバリズムの活動家は感情論を振りかざし、実際に交渉に当たる政策担当者は交渉テクニックのしのぎあいに終始する、という現状では、広い視野で将来どうあるべきかを見据える建設的な議論は望むべくもありません。きちんとした知識を持った上で広い視野で議論ができる人材が渴望されています。皆さんが卒業後活躍できる余地が非常に大きい分野です。是非興味を持って勉強してみてください。